

**Q** 成東病院の看護師の数のうち、継続勤務を希望する

看護師、離職する看護師、態度保留の看護師がそれぞれ何人いるのか。

**A** 市長 最終的に固まっていたが、獲得目標123名まであと数名。定年退職以外に10名程度は離職する。

**Q** 離職の理由は。

**A** 市長 理由はさまざまだが、待遇だけでなく公務員の身分にこだわる方もいる。

**Q** 事務局長予定者は医療関係に精通した人ではないが

**A** 市長 経営者としての能力を評価し、院長と相談して決めた。病院独得のものについては、今までの事務長が補佐をしていく。

**Q** 今後も山武市の職員を管理職として病院に派遣する

**A** 市長 当面、引き継ぎに2、3名が必要だという要望があるが、恐らく1年を超えることはない。病院内部のプロパー職員が育たない原因ともなる。市からの職員派遣は限定された数であり、期間も一定の期間に限られる。

**Q** 保健福祉部の中に地域医療推進課を設置するという

ことだが、事務所を病院の中に設置すべきでは。

**A** 保健福祉部長 病院からもそうした意見があった。効率的な事務を行っていくという観点から決めていきたい。

**Q** 山武地域の救急医療の大きな問題点は夜間の二次救急の輪番体制が非常に手薄で、

とくに内科の部分が非常に弱い。一番の原因は、救急基幹病院として位置づけられている県立東

金病院が救急機関病院としての役割をはたしていないことであり、勢い、さんむ医療センターへの期待が大きいかかっている。

今後、とくに内科系の夜間二次救急には力を入れていく必要があると思うが、市長の考えは。

**A** 市長 東金病院が機能していないということが、この地域の内科の救急体制に大きく悪影響を及ぼしている。しかし、県にそういったことを話しても、この体制は変わっていくか

らう。やはり、地域の医療は地域で守るという大前提で考えていかなければいけない。内科の輪番を積極的に引き受けていく

ことは、目標の重要な部分に置くが、やはり内科のドクターの数に見合った輪番体制でスタートしないと、同じ轍を踏むことになる。まず、ドクターの確保、

それから、おっしゃるように、常勤の看護師も一定数がそろわないと、夜間の輪番を引き受けることができないということも事実であり、やはり医師の確保、看護師の確保がカギになる。可能な限り輪番を引き受けていきたい。

一般質問の内容は、各議員より提出された原稿をそのまま掲載しました。

## インターネット議会中継を開始しました

山武市議会では、広く開かれた議会を目指して、インターネットによる議会中継を開始しました。これは市民の皆さんにとって、市議会がこれまで以上に身近なものとなるように、本議会のインターネットによるライブ中継と録画配信を行うものです。山武市のホームページから平成22年第1回定例会（3月定例会）の様子からご覧になれます。

議会中継のページ  
(<http://www.city.sammu.lg.jp/section/jimukyoku/gikai/tyuukei.html>)

## 議会だより 編集委員会

- 委員長 井野 敬一
- 副委員長 本山 英子
- 委員 篠崎 修
- 委員 能勢 秋吉
- 委員 宍倉 弘康
- 委員 小川 一馬
- 委員 川原 春夫
- 委員 小野崎正喜

## 編集後記

新聞記事は千葉県庁の不正経理問題をはじめ公金の使途を指摘。全国には1727の市町村があり、公金の取り扱いは一定のルールを定め管理されている。皆さんの管理が原因で裏金を作り、私的に使用して問題になっている訳だ。公金Ⅱ(税金)Ⅱ市民からの預かり金の認識を持ち、管理・運用を正しく正確に行う事。

3月議会は市民生活に直結する一般質問が多く、国保成東病院が4月1日から独立行政法人「さんむ医療センター」と名称変更して始動することから、新しい病院の運営や組織形態等について今までの違いは何か、混乱なく正常に運営できるかなど鋭い質問が出された。教育、福祉、地域振興・公共交通・空港対策など市民の目線で捉えた問題を市政に対して質問してきた。

教育環境の統一整備のために、3小学校の体育館建設事業、蓮沼中学校の耐震・外壁工事の入札が行われた。予定価格より大幅に低い最低制限価格で落札。工事費は低いが仕事は誠実に安全・安心の意識を高く持ち進めてもらいたい。学校には多数の児童・生徒がいることを忘れないでほしい。

編集委員 篠崎 修